

アサヒグループホールディングス株式会社  
2025年12月期 上期決算説明会 説明概要②

日時： 2025年8月8日（金）11：30～13：00

当社登壇者： 取締役 兼 執行役 Group Chief Financial Officer 崎田 薫

**◆セグメント変更 (P14)**

- 本年4月より、より迅速な意思決定と効率的な事業運営の推進や、グループ全体でのプレミアム戦略、マルチビバレッジ戦略、グローバルブランド成長戦略を加速させるために、これまでの4地域体制から3地域体制へ変更しています。
- 上期決算より、開示セグメントについても、新しい3地域体制を適用し、実績や前年比、年初計画比も1月から遡及修正して開示しております。
- 大きな変更点は、スライド左側に記載の通り、従来の欧州に含まれていた東アジアの酒類事業を日本へ移管し、同様に東南アジアおよび南アジアの酒類事業に加えて、従来の東南アジアの飲料事業をオセアニアへそれぞれ移管しています。今後は、「日本・東アジア」、「欧州」、「アジアパシフィック」の3地域での開示となります。
- 各移管事業の事業規模については、右側に記載しておりますが、事業利益の今期予想に与える影響は軽微となりますので、ご確認頂ければと思います。

**◆決算ハイライト（売上収益・事業利益） (P15)**

- 上期の売上収益につきましては、欧州は天候不順などもあり減収となりましたが、各地域での適切な価格戦略やプレミアム化の進展などにより、トータルでは前年比+0.6%の増収となりました。
- 事業利益につきましては、日本・東アジアや欧州が増益となりましたが、アジアパシフィックの減益や、全社費用の増加などにより、トータルで前年比3.2%の減益となりました。
- 上期の業績予想は開示しておりませんが、計画比では、売上収益は欧州を中心に下回る進捗となりました。事業利益については、主に、日本・東アジアとアジアパシフィックが上回り、トータルで計画を上回る進捗となりました。
- 右側に記載しております年間予想につきましては、売上収益は、各リージョンの上期の進捗などを踏まえ、トータルでは年初予想を231億円下回る、前年比+2.4%の増収に修正

正いたしました。

- 一方、事業利益につきましては、アジアパシフィックでは、移管された東南・南アジア酒類の見直しにより下方修正しましたが、日本・東アジアや欧州を上方修正したことにより、トータルで前年比+4.1%に上方修正しております。

#### ◆営業利益・当期利益 (P16)

- 上期の営業利益につきましては、事業統合関連費用は減少しましたが、セグメント変更に伴う東アジアのれん等の減損損失などにより、前年比 11.4%減益の 923 億円となりました。
- 「親会社の所有者に帰属する中間利益」につきましては、金融収支の悪化影響などもあり、前年比 23.1%減益の 587 億円となりました。尚、減損損失等の一時的な特殊要因を控除した調整後中間利益では、前年比 11.7%減益の 675 億円となっております。
- 年間予想につきましては、営業利益は、前年の固定資産売却益が無くなることや上期に計上した減損損失などにより、前年比△5.2%を見込んでいます。年初計画比では、上期の減損損失などを織り込み、営業利益、当期利益共にそれぞれ下方修正しております。

#### ◆BS・CF の概要 (P17)

- バランスシートにつきましては、資産合計は、設備投資やのれんの増加などにより、トータルでは年初予想を 760 億円上回る 5 兆 4,370 億円となる見込みです。
- Net Debt／EBITDA は、劣後債償還や金融債務残高の増加などにより、3.11 倍となる見込みです。
- フリー・キャッシュ・フローについては、設備投資の増加に加え、海外を中心に昨年末取り組んだキャッシュ最大化施策の裏返し影響などもあり、前年から減少し、1,300 億円の創出を見込んでいます。
- 1 株当たりの年間配当金額は、年初計画の 1 株 3 円増配の 52 円を据え置いておりますが、昨日開示しました通り、今期 700 億円の自己株式を取得することで、株主還元の充実化を図ってまいります。

#### ◆日本・東アジア (P18)

- 上期の売上収益は、日本の酒類や飲料などの価格改定効果などにより、トータルでは 前

年比 1.8% の増収となりました。

- 事業利益は、飲料や食品は減益となりましたが、酒類や東アジアが増益となり、トータルでは前年比 1.4% の増益となりました。
- 計画に対しては、売上収益は主に飲料が計画を下回りましたが、事業利益は、飲料と食品の下振れを、酒類と東アジアでカバーし、トータルでは計画を上回る進捗となりました。
- 年間予想については、売上収益は、上期に下振れた飲料は下方修正しましたが、酒類と M & A による新規連結効果が上乗せされる食品の上方修正により、前年比 + 3.3% に上方修正しております。
- 事業利益は、洋酒・RTD・アルコールテイスト飲料が好調な酒類の上方修正と、地域統括会社のコスト効率化を推進することにより、トータルでは前年比 + 5.5% に上方修正しております。

#### ◆ 欧州 (P19)

- 上期の売上収益は、ポーランドなど一部地域の需要減少や中東欧を中心に天候不順の影響を受けたことなどにより、トータルでは前年比 △ 2.7% の減収となりました。
- 事業利益は、プレミアム化の継続によるミックス改善に加えて、変動費を含む各種コストの抑制などにより、前年比 + 2.3% の増益となりました。
- 計画に対しては、売上収益は、数量減少により想定を下回りましたが、変動費と固定費の効率化などによりカバーし、事業利益は計画ラインの進捗となりました。
- 年間予想については、売上収益は、下半期の需要回復を図りますが、上期の進捗などを踏まえて、各国の販売計画を見直したことにより、前年比 △ 0.7% に下方修正しております。
- 一方、事業利益は、中期的な成長を見据えてブランドなどへの戦略投資を継続してまいりますが、コストマネジメントの更なる強化などにより、前年比 + 3.2% に上方修正しております。

#### ◆ アジアパシフィック (P20)

- 上期の売上収益は、主にオセアニア酒類は減収となりましたが、オセアニアと東南アジア

ジアの飲料が前年を上回ったことにより、トータルでは前年比+2.0%の増収となりました。

- 事業利益は、オセアニアにおける酒類の数量減少や固定費のコストアップなどにより、前年比△4.0%の減益となりました。
- 計画に対しては、売上収益は、トータルではほぼ計画ラインの進捗となりました。事業利益は、移管事業である東南・南アジア酒類は販売数量が想定を下回ったことで未達となりましたが、オセアニアは各種コストの効率化により過達となり、トータルで計画を上回る進捗となりました。
- 年間予想については、売上収益は、主に東南・南アジア酒類の販売計画を見直したことで、前年比+4.4%に下方修正しております。
- 事業利益は、オセアニアは年初計画を据え置いておりますが、東南・南アジア酒類における当期の積極的な拡大戦略を見直したことなどにより、前年比+2.3%に下方修正しております。
- 事業毎に進捗の強弱はございますが、成長戦略と収益構造改革の推進により、今期計画の着実な達成を目指すとともに、新ガイドラインの達成に向けて、財務戦略も着実に実行してまいります。

以上